

巻頭言



日本 ALS 協会北海道支部
支 部 長 山 田 洋 平

皆様、日本 ALS 協会北海道支部支部長の山田洋平でございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。2025 年の 1 月が過ぎようとしておりますが、大寒だというのに、この時期としては、記憶にない位の暖冬の日が続いております。2 月 4 日から、札幌市で「雪まつり」が開催されますが、この期間中だけは、再び、例年の札幌市の 2 月の気温に戻ることを切に願うばかりです。

さて、前回の「絆」に書きましたとおりに、去る 1 月 10 日に避難訓練を実施しました。当日は、私が望んでいたような吹雪とはいかなかったものの、真冬の避難訓練を行うことができました。当日は、私の自宅から最寄りの避難場所である自宅から約 300 メートル離れた小学校に、実際に大地震が起きたと想定をして、避難をしました。

この避難訓練には、札幌市の障がい福祉課の担当の方、小学校の校長先生、教頭先生を始め、北海道支部の事務局長を始めとして運営委員、私の往診医の吉崎先生、相談支援専門員の方を含めて、想定を上回る方々にご参加をいただきました。

そして、当日は、北海道新聞社と、テレビの HBC 社に取材をしていただきました。私のような人工呼吸器ユーザーで、身体がほとんど動かない障がい者が、着替えを含めて、地震が発生してから、避難場所まで 47 分で到着できた事は、異例の速さだと思います。

これは、私が、毎日スタッフたちと外出を欠かさず重ねた賜物だと思います。次の避難訓練では、40 分を切ることは充分可能だと確信をしています。

この避難訓練の後に私から参加者に伝えたメッセージは下記の通りです。

『皆様、今日はお疲れ様でした。今回の避難訓練は、昨年の一月に能登半島で発生した大地震が決して他人事ではなく、日本のどこであっても、季節や時間に関係なく発生することに危機感をおぼえたのがきっかけです。それゆえ、私のように人工呼吸器ユーザーで重度の障がいと生活をしている人間は、常に自然災害に対して、緊張感を持ち、対策を考えて生活をしなくてはならないのです。社会共生とは言いますが、私は、たとえ身体が動かずとも、自然災害などの事態がいつ発生しても、周囲の皆さんに過度な迷惑をかけたくは無いです。そのために私は、今年の夏ごろから有事のことを念頭に置いて、非常事態がいつ発生しても、迅速に避難ができるように、毎日一回は外出することに努めました。その結果、スタッフ皆に防災意識が高まり、わずか 30 分ほどで着替えを含めて、外出ができるようになりました。しかし、私のように重度の障がいと生活をされている方

で、いつでも私のように、外に出られる方は、ほんの一握りしかいないでしょう。そのため、私が重度障がい者で人工呼吸器と生活をされている全ての方のモデルケースとなるべく、ここ北海道でも、特に寒さが厳しい真冬の一月に避難訓練を実施するに至った次第です。今日は、実際に札幌市で大地震が発生したと想定をしまして、避難場所である本通小学校に皆さんのお力をお借りしまして、無事に避難をする事が出来ました。同時に課題も見つかりました。今回の避難訓練で学んだ事を精査しまして、必ず次の避難訓練につながるように改善をします。皆様、本日は、ありがとうございました。』

もうすぐ、北海道にも春がやって参ります。そして、今よりも外出がしやすくなる季節になるでしょう。

今年も3月13日から12月まで「かでる2・7」で「絆サロン」開催を予定しております。会員の皆様とは是非お会いして、お話でもしたいと思います。(口文字になりますが)是非、お出かけください。お待ちしております。

まだまだ寒い日が続きますが、どうぞ皆様に安息の日々が続きますことをお祈りしまして、私の挨拶と致します。

令和7年1月25日記